

記号化標識「ココ!マーク高知」の取り組み*

CO CO Mark Kochi – A project for symbolizing intersections*

小松敏宏**・松浦由佳**・中島俊彦**・吉井稔雄***

By Toshihiro KOMATSU**・Yuka MATSUURA**・Toshihiko NAKAJIMA**・Toshio YOSHII***

1. はじめに

高知県は7,105km²と全国18位¹⁾の面積を持ち、全国1位の約83%²⁾と非常に高い割合の森林面積を持つ。このように厳しい地形と厳しい気象等の諸条件により他府県都の比較において、道路整備が大幅に遅れている。さらに公共交通網の整備が十分とはいえない状態で、道路整備が十分でないにもかかわらず移動手段を自動車に依存せざるを得ないのが現状である。一方、60%を超える観光客が自動車を利用して本県を訪れている³⁾ ことに加えて、高齢者の割合も高いことから、地理に不案内な観光客や運転に不慣れな高齢のドライバーに対して、効果的な道案内を提供するシステムについて検討していく必要があった。

そこで(社)交通工学研究会の協力のもと、平成18年度に「高知県交差点記号化協議会(委員長:吉井稔雄愛媛大学教授,事務局:高知県土木部道路課)」を立ち上げ、社会実験として高知県交差点記号化プロジェクト「ココ!マーク高知」(以下「ココ!マーク高知」)を実施し、「ココ!マーク」と名付けられたアルファベット1文字からなる記号化標識を設置し、同標識を用いた新しい道案内システムについて検討を行ってきた。

本稿では「ココ!マーク高知」の取り組みについて報告する。

2. 道路案内の現状と課題

高知県では道路案内標識や交差点名称標識の設置が進んでおらず、特に県道、市道での設置は大幅に遅れ

*キーワード:交通安全,交通情報,交通環境,案内標識

**非会員,高知県土木部道路課

(高知県高知市丸ノ内1丁目2番20号,

TEL:088-823-9834,

E-mail:170701@ken.pref.kochi.lg.jp)

***正員,博(工),愛媛大学大学院 理工学研究科

(愛媛県松山市文京町3番地,

TEL:089-927-9825,

E-mail:yoshii@cee.ehime-u.ac.jp)

ている。そのため、多くの場合、右左折する交差点を指し示す際には、コンビニエンスストアやガソリンスタンドといった交差点周辺のランドマークや交差点形状などの情報に頼らざるを得ない状況である。また交差点名称標識が設置されている場合でも、それらが長文であったり、近隣同士が似ていたり、文字が小さかったりするため、運転中で判断や動作に余裕のないドライバーには曲がる交差点を特定することが困難な場合が散見される。このことが道間違いや道への不安、さらには交差点周辺での事故にも繋がっていくと考えられる。土地勘がない観光客や、本県に多い高齢ドライバーなど心理的余裕の少ないドライバーではその負担も大きくなる。

以上のことから、誰にでもわかりやすく安心して運転できる道案内システムを構築することが課題となっている。

3. 高知県交差点記号化協議会の設立

このような道案内に対する課題を解消するべく、(社)交通工学研究会H16~17年度自主研究「交差点目印研究グループ」(以下研究G)において、新しい道案内を実現させるべく、道路案内標識をキーとして、各交差点にアルファベット1文字を用いて名称を与え、カーナビゲーションシステム(以下カーナビ)や地図を組み合わせるにより、道案内を容易にし、地理に不案内なドライバーに対して、誰にでもわかりやすい道案内を実現させる方法が提案されていた⁴⁾。そこで、同提案を採用し、アルファベット1文字からなる記号化標識を用い、新たな道案内システムを構築する取り組み「ココ!マーク高知」を開始した。「ココ!マーク高知」を推進するにあたり、平成18年7月学識者と研究Gを筆頭に、民間団体や県観光コンベンション協会などの観光関係者、それに交通管理者、道路管理者で組織する「高知県交差点記号化協議会(写真-1)」を設立、同協議会において「ココ!マーク」の設置箇所・設置位置の検討、告知広報や実験内容などについて検討を行い、社会実験に取り組んでいる。



写真-1 高知県交差点記号化協議会の風景



写真-2 「ココ!マーク」設置の例

4. 高知県交差点記号化協議会における取り組み

(1) 「ココ!マーク」の設置

ココマークは高知市内の主要交差点に平成18年度より設置を開始、平成21年度には、平成22年1月に本県で開幕した「土佐・龍馬であい博」にあわせ、メインパビリオンがある高知駅周辺や坂本龍馬像で有名な桂浜周辺に至る道路上に新たに標識を設置、平成22年4月現在ではココマーク設置交差点は38交差点となっている。ただし、この設置は社会実験であるため、標識を添架する道路案内標識や信号機などの管理者に対し、占用申請を行っているため、道路標識令などにおける標識の位置付けが課題となっている。

(2) 広報活動、市販地図への掲載等

写真-2にココマーク設置例を示すが、ココマークに限らず交差点名称標識は、設置するだけでは何の役にも立たず、ココマーク記号あるいは名称標識の名称を使用した道案内がなされるか、あるいは同記号・名称が指し示す交差点が、紙面上あるいは意識の中でどこに位置するのかを人々が理解することではじめてその効果が発揮される。

そこで、本協議会では、ココマークの有効性を発揮するためには、同標識の周知徹底が大きな課題であると考え、ホームページや県の広報媒体、新聞やテレビ、地元タウン誌などを通じて継続的に周知を図ってきた。また、市販の道路地図やカーナビソフトに「ココ!マーク」を入れてもらえるよう協力を要請し、(社)高知市観光協会が発行する「高知中心部」マップをはじめとして、市販地図を含む各種地図に掲載されたほか、期間限定ではあったが、平成18年度には高知市内100台のレンタカーに「ココ!マーク」対応カーナビを搭載するなどの活動、さらには図-1に示す「ココ!マーク」対応地図を印刷し、SAや道の駅、観光案内所、高知市内の宿泊施設などを通じて観光客に配布し、「ココ!マーク」の広報活動を行っている。



図-1 「ココ!マーク」対応地図

(3) ドライバーに対するアンケート調査

本協議会では、ドライバーを対象とし、「ココ!マーク」の設置効果に関するアンケート調査を行った。

アンケート調査は、高知市内の土地勘が薄いドライバーをメインターゲットとし、平成18年度から継続的に調査を行っている。アンケート結果によると、「ココ!マーク」の利用により運転がしやすくなった、運転経路が分かりやすくなったなど、回答者の約80%以上が「効果あり」と回答しており、居住地が県外である人からはさらに高い評価を得ている。

以下に平成19年度に実施したアンケート調査結果について紹介する。同調査は高知市に向かう観光客が比較的多いと考えられる高知市近郊のサービスエリア等で調査票を3,000枚配布し、郵送回収方式で423枚を回収した(表-1参照)。

図-2には、ココマークの設置によって経路がわかりやすくなるかとの設問に対する回答結果を示す。回答者の居住地によらず「大変わかりやすくなる」が「多少わかりやすくなる」と回答した人の割合が8割程度を占めた。また、「大変わかりやすくなる」と回答した回答者の割合は高知県外に居住する回答者に多くっており、ココマークが設置されている高知市内の道路によく知るドライバーよりもあまり知らないドライバーの方の評価が高くなっている。続いて、ココマークが設置されている高知市内中心部を走行したドライバーを対象に、高知市内中心部走行時に進路決定の参考にしたものに関して回答を要請した。回答の結果を図-3に示す。同調査実施時点では、ココマークに関する認

知が広まっていないこともあり、ココマークの利用割合は10%程度にとどまっている。また、高知市内在住の回答者を除き、一般の標識、続いて地図、カーナビがよく利用されているとの結果が得られた。高知県内在住者と高知県外在住者の比較では、地図・カーナビは高知県外在住者の方が利用割合が高いのに対し、標識は高知県内在住者の方が高い利用割合を示した。カーナビや地図は全く初めての場でも利用できるが、標識

表-1 居住地の回答結果

	回答数	割合[%]
高知市内	76	18.0
高知県内	87	20.6
高知県外	260	61.5
計	423	100.0

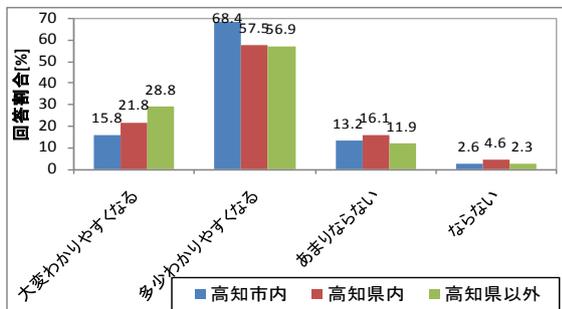


図-2 「ココ！マーク」の設置によって経路がわかりやすくなるかとの設問に対する回答結果

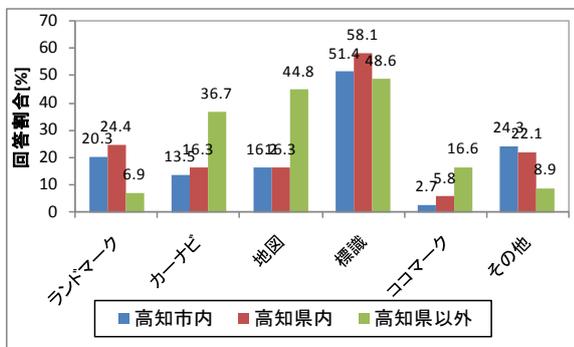


図-3 高知市中心部走行時の参考物(複数回答可)

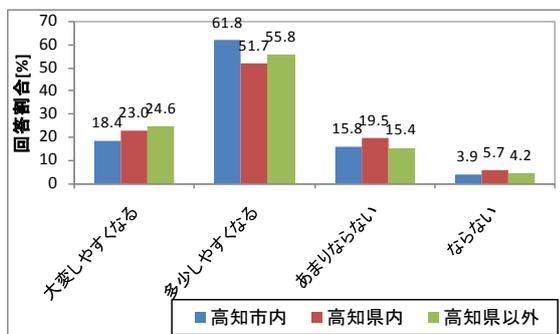


図-4 「ココ！マーク」によって運転がしやすくなるかとの設問に対する回答結果

は標識に記載されている地名等の情報を理解していないと使うことができないとの性質を持つことから、高知市内に多少の土地勘がある高知県内在住者の方が標識の記載内容を理解できるとの理由で、土地勘に乏しいと考えられる高知県外在住者よりも高い割合で利用されているのではないかと推察される。さらに、図-4には、ココマークを用いた道案内を実施することで運転がしやすくなるかとの設問に対する回答結果を示す。「大変しやすくなる」と「多少しやすくなる」と回答した回答者の割合は居住地によらず70%を超えており、多くの方がココマークを用いた道案内の有効性を感じていることが明らかとなった。

(4) 地元観光事業者に対するアンケート調査

観光客などに道案内する際、ココマークを用いた道案内をして頂くよう、ホテルなどの事業者を対象にココマーク対応地図を配布した上でアンケート調査を実施し、ココマークを用いた道案内の実施状況ならびにそのメリットについて調べた。図-5にココマークを用いた道案内の利用状況を示すが、チェックイン前に利用されることが多く、ホテルに向かってくる客に対してホテルの位置を説明する際に多く利用されるとの結果が得られた。また、ココマークを用いた道案内を行ったとする回答者に対して「ココ！マーク」による道案内を行うことのメリットを尋ねた結果を図-6に示す。図から読み取れるように、約2/3の回答者が「案内時間の短縮」を挙げた他「ホテルのサービス向上」や「分かりやすいと喜ばれる」との回答が多く寄せられた。

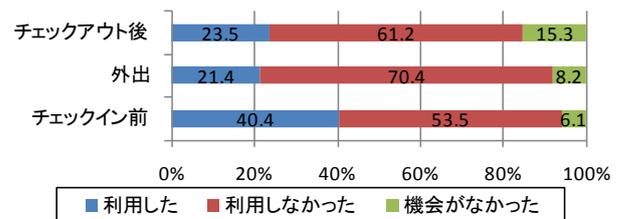


図-5 案内状況別の「ココ！マーク」道案内の利用状況

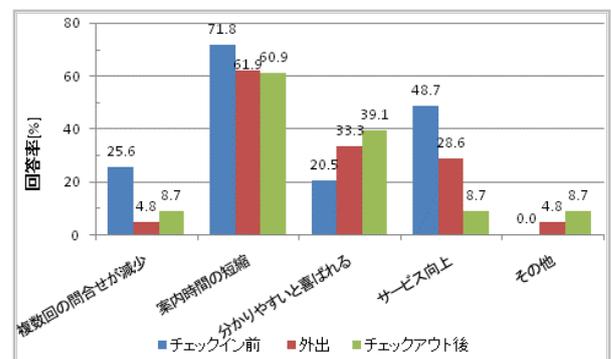


図-6 案内状況別の「ココ！マーク」道案内のメリット(複数回答可)

5. 取り組みの現状と課題

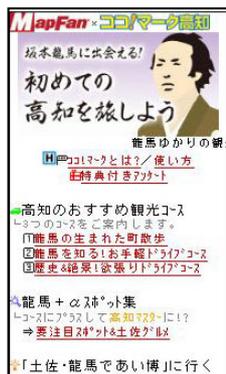
現在、高知県では空前の「龍馬ブーム」が起こっており、あわせて本県で開幕した「土佐・龍馬であい博」の影響もあり、観光客が増加している。大河ドラマが放送開始となった平成22年1月、2月の県内龍馬関連施設の入込客数は対前年度比の約286%と特に増加率が高く⁵⁾、大型連休などではさらなる増加が見込まれる。

そこで本協議会では主に土地勘が薄い観光客に向けた「ココ！マーク高知」携帯電話サイトを開設した。これは坂本龍馬ゆかりの地をまわる観光ルートを「ココ！マーク」表記地図で紹介するもので、インクリメントP(株)の携帯電話向けマップファン内 (<http://m.mamapf.com/rk/kochi/>) に公開している。

現地で移動しながら利用できる携帯電話サイトを、利用者が多いマップファン内に構築することで、「ココ！マーク」の周知拡大につなげたいと考えている。

また本サイト内で、「ココ！マーク」に関するアンケート調査を行い、今後の取り組みに活用する。

また、ココマークの高い視認性や判読性が評価され、2009年度にはグッドデザイン賞を受賞し、全国的にも評価されつつある。



Copyright(C) 2010 INCREMENT P CORP

図-8 携帯電話サイト 概要
(トップページ)



Copyright(C) 2010 INCREMENT P CORP

図-9 携帯電話サイト 概要(コース案内ページ)

しかしながら「ココ！マーク」の認知度は未だ高いとはいえず、標識の意味を聞く問い合わせも寄せられている。これは十分な周知ができていないことが原因であると考えられ、利用拡大に向けた効果的な広報活動が必要である。

新聞、テレビ等での報道、また一般の観光案内地図への「ココ！マーク」表示が広がってはきているが、今後さらに道路地図やカーナビ等に展開していくためには長期にわたる存置と、それに向けた働きかけが重要であると考えられる。

6. おわりに

4章で示したように、ドライバーやホテル事業者に対して行ったアンケート調査結果から、あるいはグッドデザイン賞を受賞するなど「ココ！マーク」の有効性や必要性についての効果が認められた。しかし現状では、外部的な良い評価は得られたものの、「ココ！マーク」の法的な位置付けはされていない。取り組みの開始から4年が経ち少しずつではあるが認知度も上がり、効果も認められてきている。

以上のことから引き続き広報PR活動を行い、市販地図への掲載など、これまで以上に利用促進を図り、「ココ！マーク」を広く普及させる取り組みを行っていく。併せて法的な根拠を得て、正式に存置できるように、国に対し働きかけを行っていくことで、本県の道案内サービスの向上、さらには安全な交通の確保へと繋げていきたいと考えている。

最後に、インクリメントP株式会社には、携帯電話サイトの構築とあわせて、「ココ！マーク高知」の広報等に多大なご協力をいただきました。ここに記して謝意を表します。

参考文献

- 1) 高知県：県政の主要指標 平成21年度版，pp. 1，2010
- 2) 高知県：県政の主要指標 平成21年度版，pp. 2，2010
- 3) 高知県観光振興部観光政策課：平成21年 県外観光客入込み調査結果の概要について，pp. 1，2010
- 4) 吉井稔雄，松平健，大口敬：交差点記号化プロジェクト，第5回 TSSシンポジウム2006 proceedings，pp303-308，2006.
- 5) 高知県観光振興部観光政策課：観光施設入込状況調査